

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策 I-6-2 航空路線の維持・充実

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 交通対策課長 伊藤 宏 電話番号 0852-22-5898

事務事業の名称	隠岐空港路線の維持・充実事業	
目的	(1) 対象	隠岐空港の利用者
	(2) 意図	運賃助成や旅行商品の低廉化等により、利便性を向上させ隠岐空港路線の維持・充実を図る。
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・隠岐空港の利用促進を図るため、隠岐空港利用促進協議会が実施する出雲線、大阪線の利用促進対策に対して助成する。 ・隠岐空港ジェット便路線の維持充実を図り、首都圏からの路線開設の環境整備を行うため、同協議会が実施するジェット便利用促進対策に対して助成する。 ・離島における住民の生活路線である出雲線を維持し、安全かつ円滑に運航させるため、運航会社に対して、運航費の一部を助成する。 ・国及び航空会社に対し、財政支援や航空路線の充実などを要望する。 	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		51.00	51.00	51.00	
式・定義	隠岐世界ジオパーク空港の乗降客数	実績値	51.60	52.00	51.70	51.46		千人
		達成率		102.00	101.40	101.00		%
指標名	ジェット便運航路線数	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
		目標値		1.00	1.00	1.00	1.00	
式・定義	季節運航を含むジェット便運航路線数（隠岐-大阪（伊丹）、隠岐-東京（羽田））	実績値	1.00	1.00	1.00	1.00		便
		達成率		100.00	100.00	100.00		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	26,565	26,565
うち一般財源(千円)	26,565	26,565

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成26年度の隠岐空港の利用者数は、全体で51,462人とほぼ前年並みとなった。路線別の利用状況は、下記のとおり

- ・隠岐-出雲線利用者数は、15,593人で、対前年比3.4%増
- ・隠岐-大阪線利用者数は、35,869人で、対前年比2.0%減。
- ・隠岐-大阪線の夏季ジェット便（8/1～8/31）の利用者数は、7,405人で、対前年比0.4%増と前年度並

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- ・隠岐-出雲線は、離島航空運航費補助制度により、航空会社の費用負担の軽減が図られた。
- ・隠岐-大阪線は、平成27年度も継続して夏季ジェット便の運航が決定した。（期間：8月1日～8月31日）
- ・平成26年度の隠岐-大阪線夏季ジェット便（8/1～8/31）は、旅行代理店に対する早期からの商品造成やツアー数の増設等の販売強化の結果、7月の運賃値上げの影響が懸念されたが、対前年比0.4%増と前年度並を維持できた。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

- ・生活路線である出雲線は、利用率60%前後にとどまっている。
- ・大阪線の冬季（12月～2月）の利用率が40%台と低迷している。

②困っている状況が発生している「原因」

- ・隠岐地域は冬季の観光客が著しく落ち込むため、大阪線の利用率の低下につながっている。

③原因を解消するための「課題」

- ・冬季の大阪線の誘客強化策として、蟹など新鮮な水産物の提供を目玉にしたツアー造成など魅力的な旅行商品づくりに継続的に取り組む必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・地元利用者が伸び悩む中、首都圏・関西圏からの観光客誘致により交流人口を拡大していくため、観光部局や利用促進協議会と連携して、魅力的な旅行商品の造成や冬季誘客対策などに継続的に取り組む。
- ・離島住民の生活路線である出雲線の路線維持のため、離島割引制度の周知を図る。
- ・国に対して、地方の航空路線維持に対する財政支援制度の充実などを要望するとともに、航空会社に対しては、利便性の高いダイヤ設定などを要望していく。

◎課（室）内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）